

## 国民性？それとも個性？

ロシアで生活して感じたこと、違う国の人と生活して感じたことの大部分は表現の方法の違いや、ものの見方に関する意見の違いなどでした。

まず、第一に感じたのは“男性”と“女性”“女の子”と“男の子”でイメージや考え方、こうあるものという考えが日本よりもはっきりしているなというものでした。

たとえば、文法の授業中「～についての」などという文章を作っていたとき、私は「私はサッカーが好きなので、サッカーについての雑誌をよく読みます。」という文章で発表しました。そうすると先生は「女の子なのにサッカーが好きなの？面白いね」と言われました。私はそこでなにかリアクションがかえってくると思わなかったので驚きました。

日本では女の子でも男の子でもスポーツ観戦はわりとポピュラーなもので、競技人口こそ少ないものの、スポーツ観戦は男女差がないものです。

ですが、ウラジオストクではスポーツ観戦自体あまり熱狂的なものは町で感じられず、テレビ番組などもスポーツ番組はあまり放送していなかったため、ポピュラーではないのかなという印象でした。

もう一つ男女の意識ではっきりしているのが家庭の中での役割でした。

日本と同じで女性も仕事をしている人はいるのですが、日常会話の授業で先生が話すことや、聞いたり見たりする映画やアニメの描写も女性は家の仕事をして男性が外に出るというのが結構見受けられました。

最近はや核家族がふえたりして日本と同じような状況になってきてはいるようですが、先生などの大人たちの考え方は比較的古い日本の考え方に似ているところがあると感じました。次に考えさせられたのは意見のはっきりした言い方についてでした。

授業中様々な場面で「日本はどんなの？」や「日本人はどうするの？」といった質問をされることがよくありました。中国人、韓国人、フィリピン人のクラスメイトはすぐにはっきりとした答えをいうのですが、私たちの答えはきまって「人によって違うから……」や「地域によるけど」など前ふりがあったからの意見が多く、結論から言わず、自分の意見だけを発表せず、あくまで平均的な意見を出したがるのは日本人の国民性なのかと考えました。

ただこれらの違いは感じつつ自分たちの特徴をつかめたり、自分自身のことを考え直したりできたことはすごく収穫になりました。

そして違いは感じながらも『違和感』や『嫌悪感』は感じはしなかったのは出会いが楽しかったのもありますが、自分の意見をみんながはっきりという環境がすごく自然に入れたのだと思います。